

## 館長より新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、3月に改正博物館法に基づく「登録博物館」として認定されたほか、7月から事前予約なしでの見学を可能とするなど、博物館として大きく飛躍した1年となりました。

また、当館のシンボル的な展示物であったキリン「長次郎」の骨格標本について、長年のホコリがたまって汚れが著しい状態にあることなどから、クリーニングやさらなる研究のために解体することとしました。当館の外からもガラス越しに見えていたキリンの姿がなくなったのは寂しい限りですが、6月から開始したミニ展示で、今まで下から見上げるしかなかった頭骨などを間近で見られるようになっています。

2024年11月～昨年5月までは特別展「NVLU奄美プロジェクト－研究・保全・そして未来－」、7～11月には当館に寄贈された謎の標本を題材として「日獣大アシカ展～なぞの標本と日本の鰐脚類～」を開催、当館の資料を本学の教員が研究した成果と連動させた形での展示が定着しつつあります。

さらに3月まで館長を務め、当博物館の発展に尽力された羽山伸一先生が7月にお亡くなりになり、一つの時代の節目ともなりました。

今年は、獣医生命科学の総合的博物館としてさらに発展するべく、当館の特色を活かした展示活動を継続するとともに、施設整備にも取り組んでまいりたいと思います。また、キリン「長次郎」を題材にした書籍の出版、骨格標本のクリーニングなど、長次郎をよりクローズアップさせる活動も予定しております。

皆様のご来場をスタッフ一同、心よりお待ち申し上げます。

本年も引き続きFacebook等で当館の情報を発信してゆきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

日本獣医生命科学大学付属博物館

館長 神代浩

2026年1月8日の記事

## 【資料紹介21】馬解剖模型

今年は「午年」です。本学と馬の関わりは深く、本学の最初の姿である私立獣医学校は、陸軍馬医学舎を卒業した9名の若い青年獣医官により設立されました。現在本学にて使われているエンブレムにも、馬の尾がモチーフの一つとして取り入れられています。

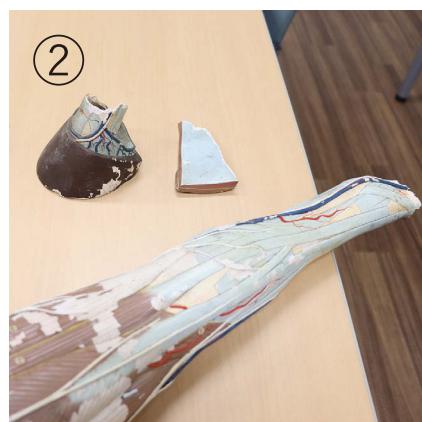
当館でも馬に関するいくつかの資料を収蔵していますが、本日紹介したいのは「馬解剖模型」です。本模型の製造・販売元は京都科学標本株式会社(1988年に株式会社京都科学に社名変更)です。同社は1948年(昭和23年)に島津製作所標本部を継承して開業し、1973年(昭和48年)に合成樹脂を素材とした牛の解剖模型の販売を開始しています。本模型は合成樹脂よりも古い纖維を固めた素材で形作られていることから、1948年から1973年までに製造されたものと推測されます。

元々は学内で使われていましたが、付属牧場での実習で活用するために牧場に移されたのち、用途を終えて当館の資料となりました。長年牧場の倉庫で保管されていたため劣化が進み、移管の時点では塗装の剥離や細かな汚れが目立つ状態でしたが、現在クリーニング作業を進めており、次回の企画展の資料の一つとして展示する予定です。

企画展に関しては、博物館の公式サイトにて情報をアップしていくので、どうぞお楽しみに！

(学芸員 石井)

#日本獣医生命科学大学 #博物館 #午年



- ① 移管時に撮影した馬解剖模型の全体像
- ② 残念ながら左前肢の足首部分が破損しています
- ③ 大学のエンブレム

2026年1月15日の記事

## 【活動日誌289】小学2年生の生活科の授業に協力しました

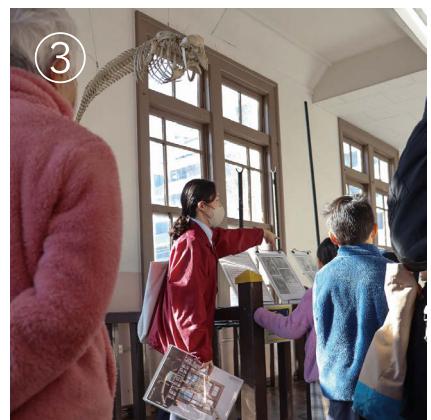
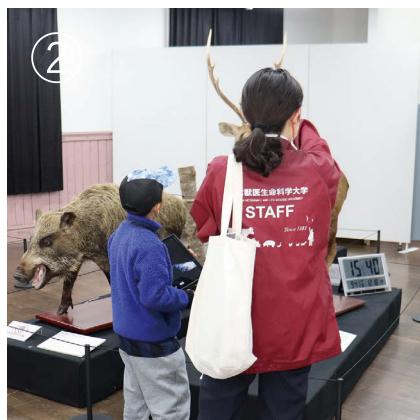
先日、境南小学校に通う2年1組の児童の皆さんが博物館の見学にいらっしゃいました。生活科の学習に「町たんけん」という単元があり、境南町にある店や施設を巡り、それぞれの良さや働く人たちの様子をインタビューしたり、撮影したりするそうです。

館内では、一番人気の展示室「自然系展示室」を紹介しました。この部屋には、武藏野市内でも見ることができる種を含め、身近な野生動物の剥製を多数展示しています。展示している剥製の一部は本学の学生が作ったものであることを伝えると、児童の皆さんはとても驚いていました。その他にも、ニュースで話題のツキノワグマや、児童の皆さんにとっても身近な存在であるタヌキの剥製などに注目が集まっていました。

町たんけんで学んだ内容は、後日小学校で開催される「境南フェスティバル」にて報告をしていただけるそうです。どのような形で発表いただけるのか、楽しみにしています。

(学芸員 石井)

#町たんけん #日本獣医生命科学大学 #博物館



- ① 引率のボランティアの方も一緒に見学されました
- ② 児童の皆さんには持参した電子端末で写真を取りながら説明を聞いていました
- ③ 廊下に展示されているスナメリの骨格標本や、1月に解体した長次郎の骨格標本の跡地も見学をしました

2026年1月24日の記事

## 【活動日誌290】骨格標本の整理作業

以前もご紹介しましたが、当館では、本学の学生や外部の専門家のみなさんのご協力を得て、博物館にある骨格標本の整理作業を進めています。以前に引き続き、今回もその様子を報告させていただきます。

整理作業では標本ごとにどういう骨があるかがわかるように並べて、整理番号と、(種名や死亡日、標本にした日などの記録があればそれらの情報も含めて)標本に付されていた情報を紙に書いて、それらと一緒に写真撮影し、記録をとっています。

この時は、サルの仲間や有袋類などの標本を主に作業していただき、本学の野生生物研究会の学生たちを中心に12名の方にご協力いただきました。

有袋類には、子の入るお腹の袋を支えるための骨である前恥骨(袋骨:たいこつ)があるのが特徴です。今回はワラビーの仲間やフサオネズミカンガルーなどの前恥骨を観察することができ、袋のない雄にも前恥骨があることにみな驚いていました。

骨格標本の整理は今後も学内外のみなさんの協力をいただきながら継続し、最終的には標本リストを作成し、ご協力いただいたみなさんにもリストを提供させていただく予定です。

(学芸員 廣瀬)

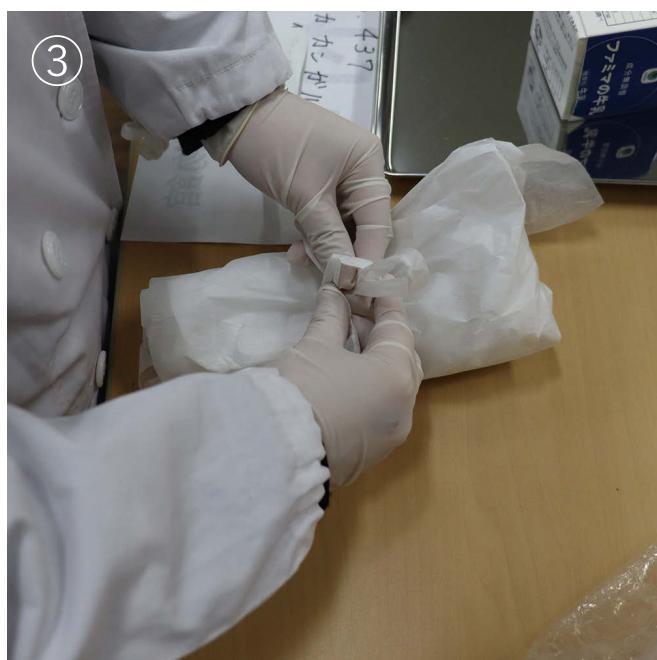
#日本獣医生命科学大学 #博物館 #骨格標本

### ■【活動報告244】骨格標本の整理作業について

<https://www.facebook.com/nvlu.wildlife.museum/posts/pfbid026nqZeCoPue2d6UP27qXgBRCxTqHZckgB3Lv1D8z3QRt42Mq5acqoqJpcf4hLFEPEI>

以前行った整理作業の様子はこちらで報告しています。

2026年1月24日の記事



- ① 骨がなくなったりしないように、袋に入って保管されていた骨をバットの上に出す様子。
- ② コモンウーリーモンキーの頭蓋骨。上顎骨の犬歯が収まっている部分の表面に、複数の丸い穴が観察されました。これらは何かの異常だろうと考えられます。
- ③ 上顎骨や下顎骨から歯が抜けて紛失してしまわないように、頭蓋骨は薄葉紙でくるんでから保管するようにしています。

2026年1月29日の記事

## 【フォロワー 200人記念】長次郎全身骨格標本

当館のFacebookページは2020年9月に開設されました。6年目を迎える今年、ついにフォロワーが200人となりました。多くの方が当館の活動に興味を持ってくださっているようで、大変嬉しく思います。これを記念して、登録番号2,000の資料「キリン(全身骨格標本)」を紹介いたします。

こちらは、1940年10月に上野動物園にて誕生し、1942年7月に井の頭自然文化園に引っ越ししたのち、1944年12月の死亡後に本学で解剖されたキリン「長次郎」の骨格標本です。長年にわたり一号棟の2階にて展示されていましたが、当館の調査によりその来歴が明らかとなり、これまでの当館の活動でも度々取り上げています。

特に、2024年に実施した「キリン講話会」は、たくさんの方からご好評をいただいており、イベントを通じて当館のFacebookを知ったという方もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。こちらのイベントでは、当館の学芸員が長次郎の歴史を掘り下げるとともに、キリンにまつわる4名の先生にお越しいただき、様々な角度からキリンについて語っていただきましたが、イベントの内容をベースにした書籍『キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み』(工作舎)が今年の3月に発売される予定となっています。

登録名は「キリン(全身骨格標本)」となっていますが、長年にわたる展示により歯や尾の骨(尾椎)の一部が失われています。ホコリなどの蓄積も顕著であることから、近日中に標本のクリーニング作業を実施する予定です。クリーニングの様子も含め、長次郎に関する取り組みは今後もfacebookにて紹介していきます！

(学芸員 石井)

# 日本獣医生命科学大学 #博物館 #長次郎

### ■【会期延長】ミニ展示「長次郎の再出発」開催中！

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20250602-02.html/>

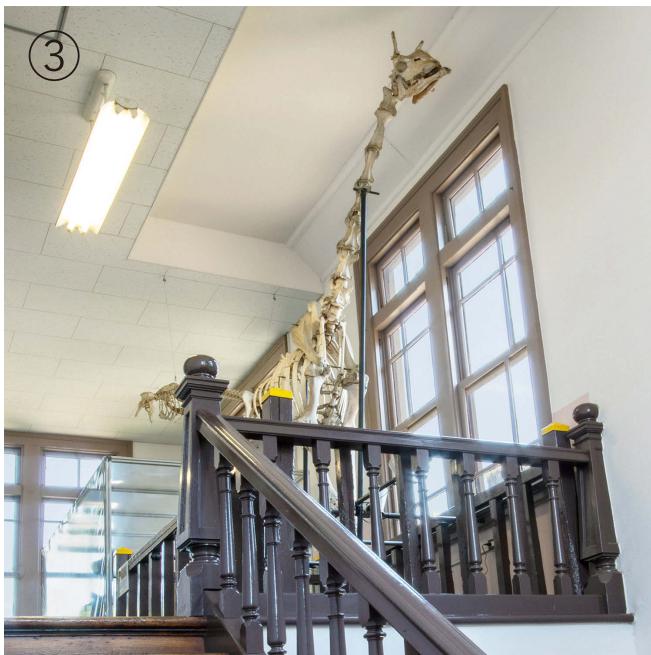
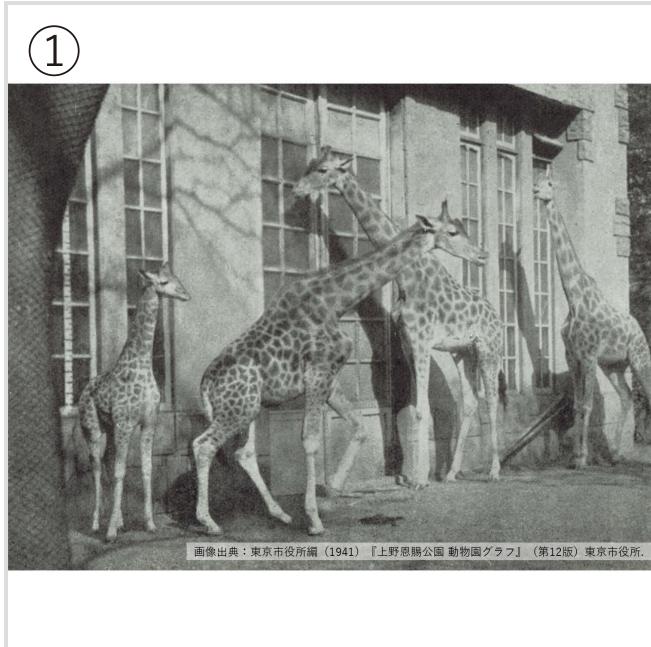
現在開催中の長次郎に関するミニ展示の詳細はこちら

### ■【お知らせ】キリン「長次郎」のこれまでの歩みが本になります

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/news/20251111-03.html//>

書籍『キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み』の詳細はこちら

2026年1月29日の記事



① 生前の長次郎：上野動物園での姿(写真左端)

画像出典：東京市役所編(1941)『上野恩賜公園 動物園グラフ』(第12版)

② 骨格標本になった長次郎：当時の在学生が中心となって骨格標本を作成しました

画像出典：日本獣医畜産大学専攻科第1期生(1952)卒業アルバム

③ 一号棟での長次郎：60年近く一号棟の2階で展示されていましたが、現在は解体されています

④ 現在の様子：ミニ展示「長次郎の再出発」にて頭蓋骨と頸椎を展示しています